

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学 校 名 広 島 県 立 大 門 高 等 学 校
(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒721-0913

広島県福山市幕山台 3-1-1

E-mail daimon-h@hiroshima-c.ed.jp

Website <http://www.daimon-h.hiroshima-c.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 422 名 女子 510 名 合計 932 名

幼児・児童・生徒の年齢 16 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「主体的に学ぶ生徒の育成」を学校理念（※もしくは活動テーマ）として、ESD をその根幹となる活動と捉え、ESD の実践を通して主体的、協働的に学ぶ力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解、環境、地域貢献を柱に、①国際交流に係わる活動、②生物多様性に係わる学習、③地域貢献に係わる学習、④アクティブ・ラーニングに係わる学習を行った。

① 国際理解に係わる活動

【趣旨】

コミュニケーション能力をそなえ、国際社会に対する広い視野や、グローバル感覚をもって主体的に行動できる力を身に付けた生徒を育成する。

【期間】

平成 29 年 7 月 28 日～8 月 10 日（14 日間）

【内容】

オーストラリア，ミッチェル・ハイスクールにおける英語集中講座
現地授業への参加と現地生徒との交流
シドニー市内研修
ホームステイ等

② 生物多様性に係わる学習

理数コース2年次における理科課題研究において，A「福山市におけるカダヤシによるメダカの生息地の減少」，B「大門の小径周辺の植物」，C「荒神山から大門の小径にかけて出現するキノコ類」という研究テーマのもとで生物多様性に関わる研究を行うグループがあった。

Aの研究では，絶滅危惧種のメダカが外来種のカダヤシによって生息地を奪われつつある現状を詳細な調査であきらかにした。B，Cの研究では学校周辺の生物の種類を調べることにより，多様性を明らかにした。

③ 地域貢献に係わる活動

学校周辺の環境を良好に保つことに貢献し，地域の一員としての自覚を深めると同時に，清掃方法についての理解を深め，市民生活の基本を習得することを目的として，生徒全員で地域清掃を行っている。今年度は，1年生が予定していた11月が雨天のために中止となったが，他学年は下記の通り行った。また，部活動の一環として，地域の小・中学生を対象にそれぞれの活動を披露し，連携を深めている。

今年度の主な活動

6月 3年生全員で地域の清掃を行った。

7月 理科部が伊勢丘周辺の小学生を対象にサイエンスショーを東部図書館で行った。

8月 理科部が多治米小学校子ども会を対象にサイエンスショーを行った。

12月 吹奏楽部が幕山台小学校で，演奏会を行った。

全部活動が場所を分担して，地域の清掃を行った。

2月 2年生全員で地域の清掃を行った。

その他，運動部による中学生との合同練習が行われた。

④ アクティブラーニングに係わる学習

平成27年度より，生徒の主体性育成を目的とした授業改善のため「Ishi 未来プロジェクト」を立ち上げ，アクティブ・ラーニングを推進してきている。今年度も，授業において知識の体系化を助ける指導（課題発見・解決学習を含む）を計画的に仕組み，生徒の能動的に学ぶ意欲・態度を育み，知識を活用する力及び知識の定着度を高める取組を継続してきた。



①の写真（現地高校生と共に）



②の写真（研究発表会）



③の写真（理科部サイエンスショー）



④の写真（アクティブ・ラーニング）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域貢献)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ 酒井聡樹 「これから研究を始める高校生と指導教員のために」
2013 共立出版
- ・ 片山紀子 編著 森口光 輔著 「できるつもののアクティブ・ラーニング」
学事出版
- ・ ダン・ロススタイン, ルース・サンタナ 吉田新一郎 訳
「たった一つを変えるだけ」 新評論

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

理数コース2年次に、科目「理科課題研究」を設定し、生徒それぞれが、個人またはグループで研究に取り組むようにしている。今年度で3年目であるが、今年度は福山大学の協力を得て、5月に生命工学部秦野琢之教授より「研究テーマの設定について」という題で講演をしてもらった。その際、本校卒業の学生からも自分が行っている研究について話をしてもらい、研究テーマのヒントをもらった。

2月の研究発表（ポスター発表）においては、秦野教授に加え、工学部の沖俊任准教授および学生2人にも参加してもらい助言を受けた。また、この研究発表会においては、全教職員にも参加を呼び掛け、多くの教職員が発表を聞いた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「Ishi 未来プロジェクト」を組織して全体構想を策定し、授業づくりの推進を図る。構成メンバー8名（管理職、中核教員、実践推進リーダー、活用コア推進者）

○Ishi 未来プロジェクト会議は、時間割に組み込み定例化し協議した内容は、教科主任会議を通して全体へ広める。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

外部評価：学校関係者評価委員会（4名） 学校評議員（4名）
年2回実施して、評価を受ける。
内部評価：授業者アンケート（年度末）
生徒による、学習・生活アンケート（年2回実施）

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

主な活動はホームページに掲載し、公表している。また、PTAの広報誌にも取り上げてもらい、生徒および保護者への周知を図っている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）
※チェック事項 2-3 に対応

理科課題研究において、福山大学の協力を得た。また、地域の小学校、公民館等の要請に応じて、いくつかの部活動が、小学生等にそれぞれの活動の一端を披露した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

特に無し

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・各教員のアクティブ・ラーニングへの意識が向上し、導入する機会が増えた。
・長年にわたる地域清掃の継続から、通学路等への美化意識が向上し、部活動単位で清掃活動を行う機会もでてきた。
・地域の生物について調べてみたいと思う生徒が増え、研究の本数が増えた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度に引き続き、国際交流に係わる活動、生物多様性に係わる学習、地域貢献に係わる活動、アクティブ・ラーニングに係わる学習を進め、さらに深化させていく。